

課題

若者が農業の環境保全機能を実感し 農業応援団となるPR方策を検討せよ

農業は、農産物の供給だけでなく国土や水など自然環境の保全等の多面的機能を持っており、国産農産物を消費することが、農業を守り、環境保全にもつながる。特に地元農産物を消費することはフードマイレージを低下させ、環境保全効果を高める。若者が農業の環境保全機能を実感し、農業応援団として積極的に地域農業に関わっていきいたい!と思えるPR方策について検討する。

解決策

知って、感じて、買って、農業応援団に! 愛知の農業を若者が盛り上げる!

解決策の方向性
(考え方)

「知って、感じて、買って」のSTEPを踏むことで若者が環境保全機能を実感し、積極的に農業応援団になることを促進する方策を検討した。

具体的な展開案

知って

SNSで農業について知ろう!

農業を知るきっかけとなるものとして、SNSの活用を提案。SNSは拡散力に優れており、広まりやすく、多くの人に情報を知ってもらえるメリットがある。そこで多くの若者が利用しているSNS「Twitter」や「Instagram」を活用して若者をターゲットに農業について情報発信を行う。



環境に配慮して栽培する赤とんぼ米の水田

感じて

学生交流会で恋も野菜も実らせよう!

「農業の魅力を感じて応援」をコンセプトに、学生が実際に農業に触れることで環境保全機能を実感できるイベントを企画。同じ興味を持つ学生が集まるので気軽に友人同士で参加できる。あまり触れる機会が少ない農業体験や農家の方との交流を通して農業の魅力をより深く知ってもらう。



「あいちの農業を応援!」

買って

寄付キャンペーンで農業支援!

直売所で愛知の農産物を買うことにより、売り上げの一部が農業支援のために寄付され、「買って農業応援」を実感しやすくなるキャンペーンを提案。寄付キャンペーンの開催をSNSと連携することにより若者にも認知してもらうことができる。



持続可能な社会へのポイント

- 地元農産物を購入しようという意識を持つ若者が増えることにより、地産地消の輪が広がり、[※]フードマイレージの減少が期待される。 ※フードマイレージ…食料の輸送量に輸送距離を乗じた指標のこと(出典:農林水産省HP)
- 環境保全機能の実感によって、「農業を大切にしよう」という意識を持つ若者が生まれ、農業応援団になり、農業の盛り上がりにつながる。

研究員からのメッセージ

一人でも多くの方が農業応援団になることで農業が活性化し、持続可能な社会へつながっていきます。実は、愛知県は農業大国なんです!是非皆さんも農業の素晴らしさを感じて農業応援団になりませんか? 愛知の豊かな農業を支えるJAグループ愛知と私たち若者で、一緒に農業を盛り上げていきましょう!

チーム・JA

リーダー ★名古屋経済大学3年 坪井 真実子 / 愛知県立大学2年 亀島 瑞生
名城大学3年 田中 さくら / 愛知学院大学2年 西林 孝治

ファシリテーター

オーガニックファーマーズ名古屋 吉野 隆子氏

